令和４年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1	一人一台端末を効果的に活用した指導方法の工夫・改善により、生徒の主体的で協働的な学びを支援し、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。（学びのスタンダード）	①	県工学びのスタンダードと「Ｒ８０」を活用し、かつ学校研究の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「県工 Thinking time」や「Ｒ８０」などを通して、根拠をもとに論理的に発言したり、記述したりすることができるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 ［継続］ A　７５％以上 (B)　６５％～７５％未満 C　５５％～６５％未満 D　５５％未満	（教務課・各教科）最終評価（　B　） 「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒の割合が７０％であった。新型コロナウイルスが未だ収束していない状況下でペア学習、グループ学習に積極的に取り組めていないことが影響していると考えられる。 しかし、こうした状況下でも GIGA スクール構想の下、１人１台端末を活用し意見交換や記述を求める授業にも取り組んでおり、今後もさらに１人１台端末の活用を進め、根拠に基づいた論理的な発言や記述の機会を増やせるものと考えている。また、「県工 Thinkingtime」や「R80」をアクティブラーニング(AL)の一環ととらえ、５０分間の授業全てを AL とするのではなく、５分間でも AL に取り組むことで生徒の思考力・判断力・表現力を高めていきたい。
		②	教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善に取り組むことで、学習の定着を実現する。	教務課 各教科	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 ［継続］ A　８５％以上 (B)　７５％～８５％未満 C　６５％～７５％未満 D　６５％未満	（教務課・各教科）最終評価（　B　） 「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた生徒の割合が８４％であった。８０％を超える生徒が主体的に学習に取り組んでいることは評価できる。各教科の課題にコツコツと取り組む生徒や資格試験に積極的に取り組む生徒がいる一方で、授業で出された課題に取り組んでいる時間を復習ととらえていない生徒や資格取得のために補習を受けている時間を学習時間ととらえていない生徒が一定数いるのではないかと考えられる。 今後は、様々な機会の中で学習に取り組めていることを自覚させるとともに、主体的に学習に取り組む姿勢を更に向上させたい。
		③	授業の情報化推進の一環として、ＩＣＴ機器の活用を促進し、学力の定着が実感できる授業を目指す。	学習情報課	一人一台端末の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 ［改定］ A　７０％以上 B　６０％～７０％未満 (C)　５０％～６０％未満 D　５０％未満	（学習情報課）総合評価（　C　） 「先生は１人１台端末を効果的に活用した授業をしている」の項目に対して肯定的な回答した生徒の割合が 51％であり、C 評価となった。１人１台端末の利用が想定されにくい実習のような授業も含まれるため、全体の評価に影響を及ぼしたと考えられる。 今年度導入された１人１台端末の利用は、授業形態も座学と実習とでは異なるため、多岐にわたると考えられる。今後は教員の研修のあり方も含め、大いに改善する必要がある。

学校関係者評価委員会の評価	・ＧＩＧＡスクール構想での１人１台端末の普及など、先生方も時代の変化についていくのが大変だと思うが、適切に研修を行い、活用を進めて欲しい。 ・数値化できない抽象的なものがあると思うが、しっかり確認していって欲しい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・校内研修の更なる充実を図り、１人１台端末の活用を促進する。 ・ルーブリックなどを使い、学習の到達目標をより明確に生徒に示すとともに、Google Classroomなどのレポート機能なども活用し、学習評価の工夫をしていく。

令和４年度学校経営計画に対する最終評価報告書　　石川県立工業高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2	規範意識やマナー向上を通して、将来の職業人として高い意識を持った生徒を育成する。（人間力スタンダード）	①	校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	日頃、生徒がしっかりと挨拶を行っているかどうかを、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。［継続］ A　８５％以上 (B)　６５％～８５％未満 C　４５％～６５％未満 D　４５％未満	（生徒指導課・各学年）最終評価（　B　） 「あなたは、日頃生徒がしっかりと挨拶を行っていると思いますか」という問いに対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」の合計が 78%となり評価はＢである。中間評価から 10%低下した。生徒または保護者の評価では、90%を超えている。本校として求めている挨拶は、現状よりも高いことを求めているという結果と言える。挨拶の大切さをあらゆる機会で指導するとともに、教員自らも挨拶をより高いレベルで実践していく。今後も粘り強く指導し、自分からしっかり挨拶できる自己肯定感の高い生徒を育てていきたい。
					遅刻者数（実人数）減少の割合で判断する。［継続］ A　前年比１０％以上の減少 B　前年比５％～１０％未満の減少 C　前年比０％～５％未満の減少 (D)　前年比増	（生徒指導課・各学年）最終評価（　D　） 遅刻者数は、１２月現在で４６０人（昨年度２９８人）と大幅に増加している。天候の悪い日は交通渋滞が予測できるが、天候の悪い日に遅刻数が極端に増加している。時間を守る規範意識が低下し、天候が悪ければ遅れても仕方がない雰囲気があるので、翌日の天気予報を確認し対応することができるように指導するとともに授業の終始を含めた時間を守ることの重要性を指導してきた。今後は、時間を守れない場合の指導方法を見直し、生徒個々に組織的な指導も行っていきたい。
			周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工ものづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。［継続］ A　９０％以上 B　８０％～９０％未満 (C)　７０％～８０％未満 D　７０％未満	（総務課）最終評価（　C　） 周辺美化活動は、昨年度に続いて、コロナウイルス拡大防止のために、実施はできなかった。除雪作業に向けて、実施できるように準備をしてきたが、積雪した時期が冬休みに入り、休み明けはボランティア活動をするまでの積雪量には至っていない。そのため評価は低くなった。しかし、そのような中で、石川県こども交流センターで工芸科３年陶芸コース８名が絵付けボランティアとして参加したり、小松市の水害の際にラグビー部がボランティア活動をしたりするなどの活動があった。また、JRC 同好会は部活動として各種ボランティア活動を継続的に行っている。来年度に向けて、コロナ禍でもできるボランティア活動のやり方などを検討し、積極的に取り組めるように工夫をしていく。
		②	交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	違反指導件数（累計）減少の割合で判断する。［継続］ A　前年比１０％以上の減少 B　前年比５％～１０％未満の減少 C　前年比０％～５％未満の減少 (D)　前年比増	（生徒指導課・学年団）最終評価（　D　） 本校の違反件数は昨年１２件で本年度は４８件と大幅に増加している。自転車マナー検定の全校生徒実施、グッドマナーキャンペーンや個別に交通安全指導を行っている。また、毎朝校門前での自転車マナー指導も行っているが、教員が見ていないところで交通ルールを守れていない現状がある。機会ある毎に交通ルールを守る指導を行うことに加え、現場での交通指導を増やしていきたい。
		③	いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができていると思うかについて、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。［継続］ (A)　９０％以上 B　８０％～９０％未満 C　７０％～８０％未満 D　７０％未満	（生徒指導課・全職員）最終評価（　A　） 「あなたは、アンテナを高くして生徒の様子を観察し、教員相互の頻繁な情報交換により、いじめに関する問題を未然に防ぐことができていると思いますか」という問いに対して「あてはまる」、「ややあてはまる」の合計が 93%となり、評価はＡである。一方で保護者は中間評価から最終評価にかけて４％低下していることや生徒から「全く当てはまらない」という回答もあることをしっかり意識しなければならない。機会ある毎にいじめは許されないことを全校生徒に伝え、生徒からのサインを見逃すことなく、特に生徒指導課、教育相談室、担任が互いに風通しのよい状態を構築し、組織的に対応していく必要がある。

学校関係者評価委員会の評価	・コロナ禍の影響があると思うが、遅刻が多いと思うので、遅刻指導に努めて欲しい。 ・経験上先生が挨拶しない学校は、生徒の挨拶もよくないので、挨拶の指導において、先生方も積極的に挨拶を実施していくことが大切である。 ・自転車の違反件数が多いので、生徒がしっかり守れるように自転車のルール・マナーを理解させて遵守するように指導して欲しい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・生徒指導だよりを活用し、時間を守る基本的習慣の大切さについてクラス担任や学科で丁寧に指導するとともに、繰り返す生徒に対しては、校内で指導内容の共通認識を図り、学校全体で組織的に指導をしていく。 ・教員間で、先生方に求められている挨拶について共有し、教員・生徒ともに工業高校としてふさわしい挨拶の質的向上を図る。 ・例年の交通安全教室の実施に加え、自転車マナー検定を早い時期に実施するとともに、自転車マナーについて、集会やクラス掲示などあらゆる機会で発信を行っていきたい。

令和４年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
３	専門的技能の習得をはじめ、資格取得や検定、コンテストに意欲的に取り組み、確かな進路実現を図る。（技能スタンダード）	①	就職希望者が１００％内定するとともに、第１社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 ３年学年団	就職希望者が１社目受験で内定した割合で判断する。［継続］ (A) ９０％以上 B　８５％～９０％未満 C　８０％～８５％未満 D　８０％未満	（進路指導課・３年学年団）最終評価（　A　） １社目の試験を１４９名受験し９名が不採用(公務員希望３名の不採用を含む）であり、内定した割合は９４％であった。面接試験で返答が乏しい生徒が不採用となっている。生徒には日頃の挨拶、場に応じて他者の意見を受け入れ、自分の意見や考えを伝えられる力を各学科・課と連携し育成を図りたい。
		②	生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業７学科 教務課	認定者数（特別表彰＋ゴールド＋シルバー）で判断する。［継続］ A　７０名以上 B　６０名～７０名未満 C　５０名～６０名未満 (D) ５０名未満	（教務課・工業７学科）最終評価（　D　） 最終的には、特別表彰なし、ゴールド３３名、シルバー１４名、合計４７名が認定され、昨年度より微増した。（昨年度は特別表彰１名、ゴールド２２名、シルバー２０名、合計４３名）。 資格・検定カレンダーの活用を進めるなど、資格を取得し易い環境づくりを図りたい。
		③	全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業７学科	［地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会］の場合は、大会出場の難易度で判断する。［継続］ (A) 全国大会でベスト１６以上の成績であった B　全国大会に出場した C　ブロック大会で入賞した D　県大会で入賞した	［地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会］（工業７学科） 最終評価（　A　） 第２２回高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門全国大会　　優勝、準優勝
					［地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会］の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。［継続］ A　全国大会でベスト８以上の成績であった B　全国大会でベスト１６以上の成績であった C　全国大会で初戦突破した D　全国大会に出場した	［地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会］（工業７学科） 該当なし　最終評価（　－　）
					各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。［継続］ (A) 全国レベルのコンテスト等で入賞 B　全国レベルのコンテスト等で入選 C　県レベルのコンテスト等で入賞 D　県レベルのコンテスト等で入選	［各種コンテスト、コンクール］（工業７学科）最終評価（　A　） 明るい選挙啓発ポスターコンクール、全国審査、協会長賞・連合会長賞 デザインパテントコンテスト、全国審査、特別賞

学校関係者評価委員会の評価	・３年以内の離職率について、離職率が少ないのは良い。昨今はキャリアアップというプラスの側面もあるので、離職についてや、働くとはどういうことなのかも含め指導の工夫をして欲しい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・従来どおり地域社会を支える人材を輩出するとともに、キャリアアップに通じる離職（転職）に関するプラスの側面についても対応できるように就職指導体制を整えていく。

令和４年度学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	分析（結果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4	学校行事や部活動等を通して、粘り強くたくましい体力と精神力及び周囲と協働する意識や社会性を培う。	①	活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	部・同好会活動に意欲的に取り組んでいるかどうかを生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。［継続］ (A)　８０％以上 B　７０％～８０％未満 C　６０％～７０％未満 D　６０％未満	（生徒会課）最終評価（　A　） 肯定的に回答した合計が中間評価からやや低下したが 85％であった。夏休み以降に人間関係の悩みや部活動をする目的や意義を見失い、意欲が低下したことが考えられるため、顧問や担任の先生方と情報の共有や対応をしながら、今後も継続して生徒が意欲を持って部活動に取り組めるよう促していく。
					県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて)［継続］ (A)　全国大会５部以上出場または総体順位男子２位以内 B　全国大会３部以上出場または総体順位男子４位以内 C　全国大会１部以上出場または総体順位男子６位以内 D　総体順位男子６位以下	（生徒会課）最終評価（　A　） 全国大会には柔道部、ボクシング部、弓道部、テニス部、アスリートクラブ(水泳－飛込、自転車)の５部６競技が出場した。県総体の総合成績男子は３位となった。
		②	学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	コロナ禍において本校の学校行事が充実していると肯定的に回答する割合で判断する。［継続］ (A)　９５％以上 B　８５％～９５％未満 C　７５％～８５％未満 D　７５％未満	（生徒会課）最終評価（　A　） 肯定的に回答した合計が生徒は 96％(中間評価 87％)、保護者は 93％(中間評価 91％)であった。夏休み以降大運動会や県工祭、競技大会等、コロナ対策を適切に行った上でコロナ禍前の内容で実施できたことが評価につながったと考えられる。本校の特色の一つでもある学校行事の充実について今後も生徒が満足するような取り組みを継続していく。また、あわせて本校の魅力の一つとしてＷｅｂページで積極的に公開していく。
		③	健康診断の事後処理の指導を強化し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	視力検査・歯科受診済の生徒の割合で判断する。［改定］ A　６０％以上 (B)　５０％～６０％未満 C　４０％～５０％未満 D　４０％未満	（保健課）最終評価（　B　） 受診済みの生徒は、１／１２現在、視力検査が約５２％、歯科検診が約６１％となった。今年度は保健だよりや掲示物での啓発活動をはじめ、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえながら、繰り返し同報メールで受診を促した。また、生徒への個別指導を実施し、根気強く保健指導していったことが、受診率向上につながったと思われる。来年度も、今年度以上に保健指導や受診指導の充実を図り、生徒の健康管理能力の向上に努めたい。
5	教職員が相互に業務を点検・改善し、教育の質を落とすことなく組織的で効率的な業務の在り方を探る。	①	校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。	各科・学年・各課	教員が学校で設定した定時退校日を守れている回数の平均で判断する。［改定］ A　１２回 B　１０～１１回 (C)　８～９回 D　８回未満	（各科・学年・各課）最終評価（　C　） 年度の途中（１１月までの７回）までの集計で平均 5.01 回、１年 12 回に換算して 8.6 回であり、Ｃ評価であった。しかし、教職員の時間外勤務時間の統計によると、令和４年度上半期の県全体（全日制高校）の平均値が 42.0 時間に対し、本校の平均値は 34.3 時間であるなど時間外勤務時間削減の取組は一定の成果を上げつつある。 今後も定時退校日に向けてメール等で計画的な勤務の呼びかけをするとともに当日は帰りやすい雰囲気づくりにつとめていく。あわせて業務の偏りの是正や定時退校日の生徒の扱いについて検討していく。
6	「新しい生活様式」を踏まえ、新型コロナウイルスへの感染リスクをできるだけ減らしつつ、生徒の健やかな学びを保障するとともに、生徒の心のケア、人権への配慮等、新型コロナウイルス感染症と共生していく学校運営に努める。	①	感染防止のための「新しい生活様式」の啓発活動と具体的取り組みを保健課が主体となり全職員共通理解の下で生徒を指導する。	保健課 全職員	「新しい生活様式」を踏まえて感染防止策に主体的に取り組んでいる生徒の割合で判断する。［継続］ (A)　９５％以上 B　８５％～９５％未満 C　７５％～８５％未満 D　７５％未満	（保健課・全職員）最終評価（　A　） 「あなたは、新型コロナウイルス感染防止のための「新しい生活様式」のマスク着用・手指消毒(手洗い)などに取り組んでいますか」の問いに対して、「当てはまる」、「やや当てはまる」の合計が 96.4%となり、A評価であった。保健課を中心に全職員で昼の黙食やマスクの着用、常時換気等基本的な感染防止対策の徹底を指導するとともに、保護者に対して一斉メールを通じて継続的に協力をお願いした成果と考えることができる。また、感染対策の１つである健康チェックに関しても継続的な回答の呼び掛け、ホーム担任からの働きかけにより、平日は 90%を超える生徒が回答するようになったが、週末の回答は 20%程度にとどまっている。 継続的な呼びかけによる意識向上を行って「新しい生活様式」の更なる徹底を図り、コロナ禍の中でも学校生活への支障が最小限になるようにしていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・コロナ禍においても、学校行事がしっかりできてよかった。今後も工夫してやって欲しい。 ・多忙化改善について、取り組みを進めて欲しい。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	・コロナ感染症の５類への変更に伴う新たな状況に対する対応を検討し、学校行事の充実・生徒の満足度の向上に努める。 ・定時退校日の在り方の検討や教員間の業務の偏りの是正に務めるとともに、採点支援システムや校務支援システムをはじめとするＩＣＴ活用を一層推進する。